

シンポジウム 2

「非乳頭十二指腸腫瘍の内視鏡診療」

司会 郷田 憲一（獨協医科大学病院消化器内視鏡センター）

加藤 元彦（慶應義塾大学内視鏡センター）

希少癌である十二指腸癌の内視鏡診断は確立されておらず、内視鏡治療のハードルは極めて高かった。

近年、粘液形質や遺伝子解析による病態解明が進み、画像強調拡大観察による診断能向上に関する報告が相次いでいる。さらに治療手技の工夫や周術期管理法の確立により先進施設を中心に治療成績の向上も報告されている。本シンポジウムでは非乳頭部十二指腸腫瘍の内視鏡診断・治療（関連基礎研究含む）の最前線について議論したい。